

□■ものづくり海外取引商談会・交流会(第二回)■□

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの佐藤です。

しまね産業振興財団は、11月23日木曜日、工作機械や金属加工機械を対象とするアセアン最大の国際見本市「METALEX」の開催に合わせ、同会場であるBITEC内大ホールにおいて、「ものづくり海外取引商談会・交流会」を開催しました。



商談会会場の様子

このイベントは昨年に引き続き第二回目の開催で、今年は、大田区産業振興協会・香川県・鳥取県・タイ下請振興協会との共催でした。

出展企業として、島根県から5社（県内企業2社、既タイ進出企業3社）、大田区から6社、香川県9社、鳥取県1社に、タイ下請振興協会から選定されたタイ現地企業4社が加わり、計25社（全て製造業）の参加となりました。

午前中の商談会では、上記出展企業25社との商談を希望する在タイ日系企業・タイ現地企業44社が会場を訪れ、売買契約（販売・調達）、ジョイントベンチャー、アウトソーシング（委託・受託）、技術提携などに関する熱心な商談が行われました。

参加企業からは、「具体的な取引に繋がりそうなので、今後も協議を継続していきたい。」
「有益な情報収集や意見交換を行うことができた。」といったポジティブなお声が多く寄せられました。なかには二年連続で同一企業との商談を設定された企業もあり、「ここ一年で商談相手先の状況が変わり、昨年には無かった需要が今後発生する見込みが出てきた。」と、連年での参加により有意義な情報を得られるケースも見受けられました。



商談風景

午後から開催された交流会では、午前中の商談会参加企業以外にも、METALEX 出展企業や来場者が自由に参加できる形式で、約 110 社、220 人が来場し、名刺交換などの企業間交流が活発に行われました。交流会での名刺交換からそのまま商談に繋がるケースもあり、会場に設置された出展者ブースでも、出展者が来場者に積極的に自社製品についての説明を行うなど、盛会のうちに終了しました。

タイ下請振興協会のチャナティップ会長は、交流会の冒頭の挨拶で「昨年引き続き、このようなビジネスマッチング・企業交流の場を提供することができて嬉しい。現在、タイは産業構造の転換期を迎えており、そのためには日本の製造業の知識や経験をタイに取り入れていく必要がある。今後も両国のビジネスマッチングに力を入れていくので、協力してほしい。」と語りました。



タイ下請振興協会 チャナティップ会長



交流会会場の様子

島根・ビジネスサポート・オフィスでは、島根県内企業と島根県からの既アセアン進出企業の海外展開や販路開拓に少しでもお役に立てるよう、企業間交流の機会となるこのようなイベントの企画・運営を、今後も続けて参りたいと考えております。

□■アセアン現地視察ミッション【ミャンマー・タイ】■□

（「H29しまね中小企業海外展開勉強会」オプション企画）について

11月19日から24日にかけて「平成29年度しまね中小企業海外展開勉強会」（主催：しまね産業振興財団）のオプション企画としてASEAN現地視察ツアー（ミャンマー、タイ）が実施されました。

島根県の企業、支援機関、行政機関の海外担当者が参加し、市場視察や進出日系企業訪問などを通じ、現地の現状を肌で感じる視察となりました。

視察ツアー参加者の感想をご紹介します。

<視察に参加して>

（参加企業）

- ・当社はまだ海外進出や輸出入などの展開を具体的に考えておりませんでした。そのきっかけとなる市場の見聞ができたことは今後の事業展開に向けて参考になりました。また、なかなか単独では接点の持てない企業や工業団地へ伺うことができ、貴重な体験となりました。

（参加企業）

- ・個人ではなかなか行くことができないところへ行くことができるのはこの企画あってこそだと思います。企業がもっと参加すればいいのにはと思います。自分はこの視察に何度も参加させていただくことで、確実に視野は広がったし、「海外」というのにそこまで身構えることがなくなってきました。特に島根のような地方在住だと考えや視点が狭くなりがちなので、何から何まで段取りしてもらって視察ができるこの企画は今後も続けてほしいとは思っています。

<ミャンマー視察の感想>

（支援機関参加者）

- ・ASEAN10カ国のなかでも経済発展が遅れているカンボジア、ラオス、ミャンマーは各国英語表記の頭文字を取って通称「CLM」と呼ばれています。CLMは成長の伸びしろが大きく「最後の成長フロンティア」として注目されていますが、その3カ国のなかでもミャンマーは人口が断トツに大きいため特に注目されているとのことでした。（カンボジア15百万人、ラオス7百万人、ミャンマー51百万人）。
- ・タイと比べると製造業の発展は遅れており、集積産業としては縫製業しかないとのことでした。道路や電気などのインフラが整備されておらず企業進出のハードルとなっていると感じました。またハード面だけでなく税制など法律の整備も遅れており、苦勞が多いとのことでした。
- ・一方、訪問先の皆様が口を揃えて、2011年の民政移管後、急速に社会発展、経済発展が進んでいると仰っていました。10年後、20年後には大きく発展する可能性があると感じました。人口規模が大きいこと、インドやタイとのアクセスに強みがあることなどから長期的には有力な市場になると感じました。

（視察参加企業）

- ・発展途上国で最後のフロンティアと呼ばれているが、中小企業が投資先として選ぶには少しハイリスクハイリターンであると感じた。特にインフラや法整備の遅れは中小企業ではなかなか対応しきれない部分もあるだろうと感じた。しかし、発展著しく数年で環境が様変わりするであろうと感じたので、今後も注視していく必要はあると感じる。

（視察参加企業）

- ・ミャンマーに進出する企業の多くは、初進出ではなく、他国を経て次の国としてくる傾向にあるようだと思った。それなりにハードルも高いのかなと思うが、逆に考えればチャンスも多く転がっていそう。

- ・人によってミャンマーやミャンマー人に対する印象が違っていて、そのどれもが真実で結局は実際に自分が体験し、感じたことで、ひとそれぞれ違う。それを知るためにも自分の目で見る必要があると思った。来て良かった。
- ・今まで自分が参加させてもらった他の国よりはもう一段、低いところで、発展途上だと感じた。5年後はわからないが、街中で警察のピックアップが走っていたが、後ろに乗っていた警官たちが普通にマシンガンを抱えていた光景が、まだそういう国なんだと思った。

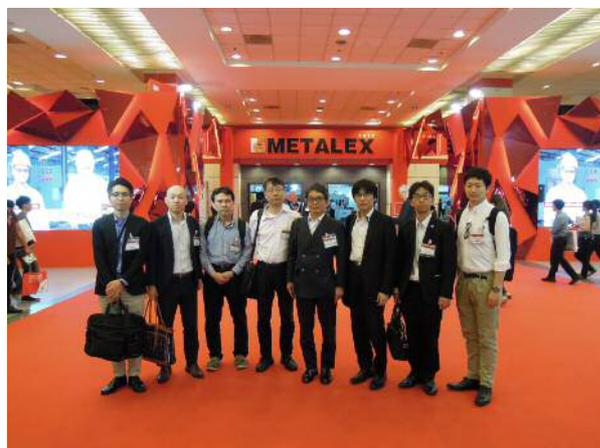
<タイ視察の感想>

(視察参加企業)

- ・当社は製造業であるため、製造業の企業様、工業団地を訪問することで会社規模感、商流などを感じ、親近感を持った。またタイ最大の展示会メタレックスでは、日本での展示会と変わらないレベルでの展示会が行われており、アセアン地域の勢いを感じた。
- ・オオタテクノパークのレンタル工場は初見でこのような海外進出の方法もあるのだと感じた。
- ・タイはビジネス環境、生活環境は問題なく、生活できる国であろうと感じた。海外進出経験のない企業が選択する市場としては第一候補として挙がりやすい市場だと感じた。しかしその分日本と同じく市場としては成熟していることからニッチな技術や革新的なビジネスモデルがないと生産性の高い仕事は難しいだろうし、コストダウンを目的とした進出はできないと感じた。情報として、少子高齢化が進んでいること、今後メコン地域一帯のハブになろうという動きが見られることは勉強になった。

(支援機関参加者)

- ・タイでは最大規模の工業団地「アマタナコン工業団地」内のレンタル工場「オオタテクノパーク」を訪問しました。アマタナコン工業団地は1989年からスタートし、現在、700社が入居、7割が日系企業とのことです。
- ・オオタテクノパークには合計25の区画があり、現在、20区画に合計10社が入居しているそうです。もともとは東京都大田区の企業向けに開発されたレンタル工場ですが、現在は大田区以外の企業にも開放されているとのことでしたので、最初はこのようなレンタルオフィスからスタートするのもしリスクを下げ、海外進出するための有効な選択肢になると感じました。



タイ最大の製造業向け展示会「メタレックス」にて



「メタレックス」での島根県ブース

《タイビジネスインタビュー》

～タイで活躍する島根県企業の駐在員の方をご紹介します。～



SMET CO., LTD.
Administration Manager
Quality Control Manager
福原 康博さん

にお話を伺いました。

―業種、事業規模について教えてください。

半導体の製造業で主に通信環境である高周波デバイスの生産をしています。2013年にタイ法人を立ち上げて、現在は日本人スタッフ2名を含めた合計37名で運用しています。日本本社は1984年創業以来、33年間に渡り高周波半導体デバイスを中心としたアSEMBリテストを行っている島根県益田市にある『シマネ益田電子株式会社』です。アプリケーションの分野は衛星放送用LNB、携帯電話、PC、無線機などがあります。各メーカーからの要望を受け、製品開発から参画して共に製品工程の立ち上げから生産を行っています。

―タイ進出のきっかけを教えてください。

弊社の製品のほとんどが海外で使用されているものです。設立当時は円高であったためコストダウンの圧力は非常に大きいものでした。これに対応することと、将来に向けての顧客とビジネスの拡大、BCPの要求と工場分散化のニーズ、そして人材と企業の成長の機会を考えて進出を決意しました。当初は、ベトナム進出も視野に入れていたのですが、インフラが充実していて、日本企業が多く進出していることがタイを選ぶ決め手となりました。

―会社設立当時を振り返り苦勞した点がありますか？

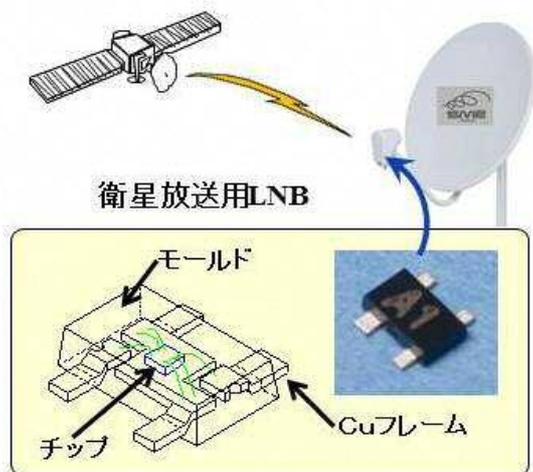
タイに降り立ち、どこに工業団地があるのか、人材の採用をどうしたらいいのか、右も左も分からない中からのスタートでした。そんな中、工場を立ち上げて生産をスタートさせましたが、最初は生産進捗もとても不安定なものでした。初回納品に至るまでの品質面の完成度の向上も厳しかったです。また、タイ人スタッフとの言葉の壁は想像以上に大きく、お互いに齟齬があったりと作業指導を行う上での苦勞は大きかったです。現在は、タイ人主体への生産に徐々に移行していますが、キーマンの育成に関してはまだ途上ですね。

—御社の強みについて教えてください。

当社は、半導体の製品設計から製品供給までを顧客ニーズに合わせて実現する会社であり、ターンキーソリューションで半導体を生み出しています。幅広いお客様に支えられての先端技術を持ち得ており、特に高度情報化における通信技術やセンサー技術を強みとして、IoT時代にも対応するビジネスなどにも乗り出しています。また、「ものづくりは人づくりである」ということをモットーとしており、社員を大切にしながら、教育育成に力を入れて、その結果、最高の品質を提供するという考えで経営を行っています。

—最後に、読者の方にPRをお願いします。

当社は半導体や電子部品の製造で培った細かな作業やクリーンな環境下でのあらゆるビジネスに対応しています。色々な困難な仕事にも日本品質で応えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。まずは、相談ベースでお声がけしていただければ幸いです。



お問い合わせ先

【SMET CO., LTD.】

HP : <http://www.sme-ltd.com/>

住所 : 150/87 Moo9,Nongkham, Sriracha, Chonburi 20110

電話 : 03-834-7377-80 FAX : 03-834-7381

☆☆タイから便り☆☆

～「バンコク市内の電線、地中埋設工事に 500 億バーツの予算」～

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、ビューです。
 タイ首都電力公社(MEA)は、現在のバンコク市内の電線事情では、将来の電力供給や安全性に問題があるため、タイ電話公社(TOT)と国家放送通信委員会(NBTC)の協力を得て、地上の電力線と通信線を地下に埋設するプロジェクトを進めています。これまで既に、シーロム、パトゥムワン、チラダー、パホンヨーティン、パヤタイ、スクビットの道路の電線を地下に移す、区間 40.6Km の工事が完了しています。

電力供給用の電線と電気通信用の電線が無秩序に絡まった電柱を撤去し、全ての電線を地下に埋設するという大掛かりなプロジェクトで、予算総額 487 億 1700 万バーツが投じられ、2016 年から 2021 年の期間で、バンコク周辺の 214.6km の区間において施工される計画です。

バンコク市内の電線は、これまで頭上でぐちゃぐちゃに絡み合っただ束になった状態で、大変危険な状態でした。木に絡まったり、ちぎれて足元にまで垂れ下がっていたり、感電事故も多発していました。タイ人の私でもバンコクの危険な電線事情には怖さを感じており、いつか適切な対策が取られることを願っていました。

島根・ビジネスサポート・オフィスはバンコクのスクビット通りに面した場所に在ります。現在工事の最中ですが、オフィスのビルの前は、既に殆どの電線が地中に埋められ、随分景観が良くなりました。今年に入り、国の政策で路上の屋台が一掃されたり、上空を遮るぐちゃぐちゃの電線が地中化されたりと、バンコクがものすごいスピードで変化しているのを感じます。



バンコクの危険な配線状況



電線埋設工事前後のスクビット通りの様子



スクピット通りでの電線埋設工事の様子



地上に電線のない通りの様子

島根・ビジネスサポート・オフィス Shimane Business Support Office(Bangkok)

担当 ; 佐藤 揺 Tayuta Sato

Address : 1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Tel : +66-(0)-2-261-10588

Mobile : +66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

お気軽にご連絡ください。

当拠点の運営法人 (島根県より業務委託)

■ アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インドにて主に日系中堅・中小企業様のアセアン進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

▶ タイ経済指標

項目	単位	2014	2015	2016	2017
GDP 成長率	前年比(%)	0.9	2.8	3.2	3.8(1~9月)
人口*	千人	67,065	67,293	67,506	67,658(9月)
労働者の数*	千人	38,963	39,165	37,792	37,216(10月)
失業率**	%	0.84	0.89	0.99	1.21(10月)
最低賃金*	バンコク	300	300	300	310(11月)
	チョンブリー	300	300	300	308(11月)
	アユタヤー	300	300	300	308(11月)
	ラヨン	300	300	300	308(11月)
賃金:全国製造業の平均	バーツ	12,074	12,305	12,402	12,470(10月)
インフレ率**	前年比(%)	1.90	▲0.90	0.19	0.63(10月)
中央銀行政策金利*	%	2.00	1.50	1.50	1.50(11月)
普通貯金率**	%	0.59	0.56	0.47	0.47(11月)
ローン金利(MLR)**	%	6.96	6.75	6.47	6.36(10月)
SET 指数*	1975年:100	1,497.7	1,288.0	1,542.9	1,697.39(11月)
バーツ/100円**	バーツ	30.77	28.31	32.53	30.39(11月)
バーツ/米ドル**	バーツ	32.48	34.25	35.30	34.1(11月)
円/米ドル**	円	105.84	121.0	108.8	112.1(11月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	884,346	795,905	765,593	715,422(10月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,662	2,237	1,688	911(9月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	729.4	809.4	861.3	565.7(9月)

*期末、**平均